

令和7年度 事業報告

社 会 福 祉 法 人 天 光 会
み ど り が 丘 保 育 園

令和7年度 みどりが丘保育園 事業報告

(園児数)

0歳児	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
定員	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
現員	9	9	11	12	14	15	15	15	15	15	15	15
在園率	60%	60%	73%	80%	93%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

1歳児	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
定員	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
現員	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
在園率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

2歳児	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
定員	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
現員	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
在園率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

3歳児	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
定員	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33
現員	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34
在園率	103%	103%	103%	103%	103%	103%	103%	103%	103%	103%	103%	103%

4歳児	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
定員	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34
現員	35	35	35	35	35	34	34	34	34	34	34	34
在園率	103%	103%	103%	103%	103%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

5歳児	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
定員	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34
現員	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34
在園率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

園児数合計

0歳児	1歳児 2歳児	3歳児	4歳児 5歳児	計
15名	54名	34名	68名	171名

職員配置

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	子育て	一時保育	フリー
保育士	5名	5名	6名	4名	2名	2名	1名	2名	3名
保育補助									1名

栄養士	看護師	調理師	調理補助	事務	用務	育休
1名	1名	2名	2名	1名	0名	4名

各種会議

開催日	会議名	内容
毎月1回	月案会議	翌月の保育計画 個人目標 その他特記事項共有
第1水曜日	給食会議	嗜好調査、食育情報共有
第2水曜日	防災会議	避難訓練反省 ヒヤリハット 事故防止
毎月2回	チーフ会議	運営ミーティング 緊急事項対策会議
毎月1回	リーダー会議	クラス運営ミーティング 課題対策会議
毎月1回	クラス会議	各クラス保育計画 問題事項対策会議

園内研修

開催月	題材	内容
5月	幼児教育	自然環境の中の保育とは
6月	研修報告・AED	AEDの使い方 心肺蘇生 緊急事態時の対応
7月	虐待予防	保護者対応 ロールプレイ式グループディスカッション
8月	研修報告 保育内容研修 保育内容実務研修	・保護者に伝わる連絡帳の書き方 ・電話対応
9月	乳児保育	乳児期の子どもたちへの自然環境保育とは 実践発表、グループワーク
10月	わたべ歌・リトミックなど保育実技	・リトミックやわらべ歌の実技・体験 ・手作り玩具の紹介
11月	障害児保育	インクルーシブ保育とは
12月	幼児教育	身近な自然物を使ってイメージしたものを形にしていぐ実践・体験
1月	保護者支援・子育て支援	保護者対応 ロールプレイ式ディスカッション
2月	自然環境保育	木育とは 木の玩具紹介

園外研修

5月	保育オンラインセミナー	保育に活用ドキュメンテーション
6月	千葉県民間保育振興会	誤嚥窒息等事故予防
6月	保育内容実務研修	連絡帳の書き方について
6月	千葉明德短大公開講座	自治体と連携した園内研修で保育が変わる
6月	保育内容研修会	まだまだあるぞ、保育園のなぞルール
6月	県保育協議会初級保育士研修会	“はじめの一歩”～「子どもの育ち」を伝え喜び合う～
7月	民間保育振興会主任向け研修	主任の心得～支える力、つなぐ力、導く力～
7月	子育て支援担当者研修会	事例発表
7月	千葉県保育研究大会	配慮を必要とする子どもや家庭への支援にむけて
7月	千葉県保育研究大会	保育者の資質向上を図り保育現場の魅力を発信する
7月	千葉県保育研修会	地域の子育て家庭への支援の充実に向けて
8月	山武支会施設長研修	魅力ある保育士の仕事～実習生に働きたいと思われる園になるために～
8月	乳児保育研修会	親と子をつなぐアタッチメント
8月	中堅保育士研修会	保護者から信頼を得るコミュニケーションの考え方
9月	保育内容実技研修	防犯訓練不審者対応
9月	山武支会準職員研修会	今考えたい子どものからだ遊び
10月	病児・病後児保育研修会	体調不良時の保護者コミュニケーション
10月	給食内容研修会	手軽にできるおやつ作り
10月	民間施設長研修会	不適切保育 子どもを聴くということとは
11月	木育コーディネーター養成研修	木育コーディネーターとは
12月	うみやま保育研修会	体験活動セーフティリーダー研修
12月	食育推進担当者研修会	偏食との向き合い方と対処法
12月	性教育研修	保育施設でできる性教育の始め方
1月	絵本講座	なぜ絵本は親しまれているのか

※6月～12月 キャリアアップ研修(幼児教育 乳児保育 障害児保育 保護者支援子育て支援 食育・アレルギー マネジメント) 5名受講

・キャリアアップ研修、山武支会支部研修の他、職員らで取り組みたい研修を中心に取り入れていった。自然環境保育や絵本にまつわる研修に興味を抱く傾向が見られた。

中でも木育コーディネーターや絵本講座では受講した職員らが強く感銘を受け、受講できなかった職員に伝えたい、自園で取り入れていきたい、園内研修を組み立てたいという声が発生し、自分達で講師に声をかけ園内研修を作り上げていた。そして、日々の保育の中に落とし込む為に1回の研修で終わりにするのではなく月案指導計画に反映する事を各クラス意識が強くなり、全体への発信もリーダー層を中心に積極的になってきた。

・アレルギー食に対する研修にも興味を示す職員が多く、様々な研修の中で受講者が一番多い研修となった。近年、食育に対しての考え方や取り組み方を園で見直しをし、計画表なども一新していった事もあり、職員の学びへの気持ちが強くなったのだと感じる。誤食を起こしたときの対処法や適切な初期行動、起こさない為の保育などの他に、アナフィラキシー症状を起こした子どもの心情や乳児の言葉で助けを求められない子どもの心境と今まで意識が向けられなかった視点にも触れており、より実践的な内容に職員らも正しく危機感を持つことを改めて学んでいた。

・今年度は初めて、保育園で行うべき性教育をテーマにした研修を行った。プライベートゾーンやジェンダーなど今まで理解が深くないまま触れてきた部分を、未就学児に向けた性教育として明確な理論から学ぶ重要性を感じた。子どもを守るため、子ども自身が自分を守るためにはどうしたらよいのか、相手も自分も傷つけてはいけない、大切に思うには何が必要かを明日からできる性教育として取り入れたが、これから全職員が性教育に対しての意識を持ち子ども達を守れるよう学びを深めていく。

組織体制

・各クラスのリーダー、主任、園長で月1回リーダー会議を導入。各クラスの進捗状況から、リーダーの悩みや課題に対して改善策や助言などリーダー同士で話し合い、コミュニケーションを図っていった。保育の質向上、働きやすい職場作り、チーム力や組織力の向上を目的としたミーティングにするよう試行錯誤しながら取り組んでいった。

・他部署間の報・連・相の徹底。

・働きやすい職場環境の実現に向けてICTの促進に努め業務の効率化を計画的に進めていくために、新たなシステムを導入した。

・園児・職員の健康状態を組織的に把握し、感染症への迅速な対応を心掛け、他機関との連携が円滑に進むよう努力した。また、市内にある他園の看護師とのミーティングの場を設け、地域の感染症対策や保育園での保健活動の情報交換をおこない、地域との協力体制をとっていった。月1回市内私立保育園の感染症状況の情報提供を促し、集計をすることで感染症の動向を把握し、保健活動に役立てていった。加え、他園の保護者や職員に向けて保健情報をまとめたお便りを毎月発行し支援活動に参加した。

・チーフ間の連携強化を図るため、月2回のチーフ会議を設け、意見交換を密にすることで課題や指導が具体化し、問題解決に努めた。

・各委員会のリーダーが委員会やミーティングを通して参加者の中心となりリーダーシップを図り、専門知識の向上に努めた。

年間行事

日程	行事名	内容
4月1日	入園のお祝い	各クラス分かれてのクラス説明会。
4月15日～	春の保育参観	各クラスフリー参加形式 1日2～3名限定
4月22日～	懇談会	各クラス遊戯室にて 保護者自己紹介 園からのお願い等
5月上旬～	春の遠足	3・4・5歳児対象 バス遠足・公園遠足等
5月下旬～	個人面談	各クラス保護者との面談
5月27日 6月3日	歯みがき教室	
6月12日	プール開き	幼児クラスは大型プールを設置。熱中症警戒アラート発動時は中止。
6月下旬	内科・歯科健診	前期
9月2日	引き渡し訓練	大型地震想定 保護者引き渡し
9月25日	交通安全教室	3・4・5歳児対象 交通安全促進活動
10月1日～	秋の保育参観	各クラス参加形式 1家庭1名の保護者参加
10月10日	5歳児秋の遠足	芋ほり遠足
11月1日	運動会	幼児クラス(3・4・5歳児)⇒大綱小学校にて開催 保護者一家族2名制限
11月14日 11月20日	4歳児秋の遠足 3歳児秋の遠足	公園バス遠足等
11月18日	チーパくん	
12月上旬	内科検診・歯科検診	後期
12月25日	クリスマス	各クラスクリスマスプレゼント受け取り
1月30日	発表会(3・4・5児)	1日一クラスの発表会。保護者各家庭2名参加。
2月	歯みがき教室	健康増進活動
2月27日	卒園遠足(5歳児)	千葉市動物公園
2月下旬	新入園児説明会	新入園児保護者対象
3月13日	卒園式	卒園証書授与。 会場は遊戯室。保護者1家族2名参加可。 式後は謝恩会を行った。
3月18日	お別れ会	5歳児にお礼の言葉や歌のプレゼントを渡す。職員によるクイズ

- ・ 季節の行事では、クラス毎年齢に合った時間・内容を考え子ども達が無理のないよう楽しめるものを考え行っていた。また、園としての行事に重きを置くのではなく、普段の保育の中に季節に触れた活動として視点を変えて取り組んでいった。同じ季節行事であっても各クラス子ども達の姿に合わせた活動を取り入れたため、それぞれの活動が見られ、また他クラスの活動にも興味を持ち異年齢交流が自然と生まれる場面も多々あった。
- ・ 幼児の運動会は大綱小学校を借りて行った。1家庭につき2名までの保護者参加可能。昨年度の反省を活かし、開催時期を11月にずらした。その為過ごしやすい気温の中開催ができ子ども達の体力的にも十分に発揮できるものとなった。また、保護者アンケートでも応援する側も身体への負担が軽減されたという意見が多かった。
- ・ 年に2回の保育参観を設けた。今年度は春の保育参観に関しては1家庭2人までの保護者参加可能に変更をした。都合がつくご家庭は両親での参加に、保護者の方々も喜んでいて。年長・年中クラスに関しては畑や泥遊びなど父親のダイナミックな姿に子ども達も喜んでいて。
- ・ 発表会は、時間差をつけながら1日の中で3, 4, 5歳児のプログラムを構成していった。グループに分けた演目とクラス一丸となって披露する演目を用意し開催した。クラスごとに子ども達と内容を決め、歌やダンス、劇などを発表する。友達同士話し合いの場を設け、意見し合い、辛い時は励まし合い、ひとつの目標に向けて協力し合うなど、子ども達の共生力を発表会という行事を通して育んでいく。

- ・卒園式は、会場は遊戯室、保護者各家庭2名参加可能形式。平日の通常保育の中での式であった。式後は謝恩会を行った。当日は年長クラス34名全員出席し卒園証書授与式を行った。
- ・実物を目にし、触れる喜びを感じてもらえるよう、芋ほり実体験や本物のこいのぼり、雛人形などを園内に展示した。

新人教育

新卒者4名

【活動報告】

- ・新入社員オリエンテーション
- ・新人正規職員メンター配置(保育士ノート記録 所見 指導)
- ・面談

3月の保育士養成学校卒業後、入職となったため、新年度を迎える前に施設内でオリエンテーションを行った。また、随時メンター同士での会議も開催しながら新人育成を行った。

実習受け入れ

- | | | | |
|-----------|----|----------|-------------------|
| ・千葉経済短期大学 | 2名 | 保育実習Ⅱ | 6月3日～6月14日(10日間) |
| ・帝京科学大学 | 1名 | 保育実習Ⅱ | 8月19日～8月31日(10日間) |
| ・植草学園大学 | 1名 | 保育実習Ⅰ | 8月19日～8月30日(10日間) |
| ・千葉明德短期大学 | 1名 | 保育実習Ⅱ | 8月22日～9月4日(11日間) |
| ・千葉敬愛短期大学 | 1名 | 保育実習Ⅱ | 8月22日～9月4日(12日間) |
| ・目白大学 | 1名 | 保育実習Ⅰ | 8月26日～9月7日(12日間) |
| ・千葉明德短期大学 | 1名 | 保育実習Ⅰ | 1月20日～2月1日(11日間) |
| ・敬愛短期大学 | 1名 | 保育実習Ⅰ | 1月30日～2月13日(12日間) |
| ・目白大学 | 2名 | 保育実習Ⅰ | 1月30日～2月13日 |
| ・東海大学 | 1名 | インターンシップ | 8月26日～8月27日 |
| ・千葉明德短期大学 | 1名 | 乳児保育体験 | 9月20日 |

今年度も積極的に実習生の受け入れを行うことができた。

ボランティア受入・職場体験・町探検

(ボランティア受け入れ)

期間、受け入れ人数は以下の通り。

- ・夏季【7、8月】 小学生54名、中学生6名、高校生3名、大人1名 計64名

時間は昨年度と同様、小学生は午前中のみ(但し、職員の子どもや中学生以上の兄弟が同日にボランティアを行う場合は午後2時まで参加可)、中学生以上は16時まで参加可能で受け入れを行った。参加人数は前年度より18名増加し、年々参加人数は増加傾向にある。昨年度参加した子ども達から今年度も参加を希望する声が多く、また、卒園児や、職員の子ども以外に、地域の子ども達も参加して

いただけたことで、地域交流に繋がられた。今後は、保育士希望の高校生以上の学生にも多く参加してもらい、将来の人員確保につなげていきたい。

(職場体験)

令和7年度なし

(町探検)

令和7年度 大網小学校2年生17名が来園。保育園見学や子ども達の様子、各年齢の遊び等を紹介した。

業務委託

日程	内容	委託先
6月11日 11月26日	内科検診	千葉東こどもクリニック(松崎 真由美 先生)
6月20日 11月21日	歯科検診	伊藤歯科医院(伊藤 喜清 先生)
5月28日 6月4日 2月14日 2月18日 2月19日	歯みがき教室	大網白里市健康増進課歯科衛生士
9月12日	交通安全教室	東金警察署
11月19日	チーパくん	バードアイ

苦情報告

① (内容)

・子どもの怪我について

怪我の説明不足。経緯がわからない。最近他児とのトラブルによる怪我が多い。

(対応)

・謝罪をし、怪我が起きてしまった経緯を丁寧に伝えた。また、本児の成長や他児との関わりが以前よりも増えてきたこと、他児と遊ぶ事の楽しさと知ってきた分思い通りにならない悔しさも知り、喧嘩につながるが増えたことを伝えた。子ども同士の関わりを大切にしながら、一斉や個別に思いの伝え方を話していく。いきすぎたトラブルになる前に仲立ちとなるよう注意深くみていく事を伝える。

② (内容)

・運動会のお土産の絵本の選択を園側の指定のものにするのは納得がいかない。また、購入する、しないの選択肢がないのも不満である。

(対応)

・改めて月間絵本の購入を廃止した経緯(一斉保育をしない、保護者の金銭的負担の軽減、絵本バックの準備など労力的負担軽減)や、園でも家庭でも絵本に触れる機会は減らさないようにしたい事、読み聞かせには親子関係だからこそ子どもの情緒的成長に大きな影響があるかを伝えた上で、改めてご協力をいただきたいと伝えた。また、保護者が選んだ絵本を用意してもらい、こちらでラッピングをし、運動会当日渡した。

つばみ組(0歳児クラス)事業報告

基本方針

- ・子どもの気持ちや欲求を丁寧に受け止めていく。
- ・様々な遊びを通して、感覚器官を発達させ、感性を育てる。
- ・保育者とかかわりや遊びの中で楽しさを感じられるように共感していく。
- ・身近な自然(草花、虫、雨、風等)に触れ、親しみを持てるようにする。

クラス目標

- ・愛着関係のもと、一人ひとりの子どもの発達を理解し、個性を大切にしたい保育を行う。
- ・社会人として保育者として、互いに認め合い、共に子どもの育ちを考える。
- ・自身の強みや意欲を持ち、その分野の知識を深めたり技術を磨いたりする。

活動報告

○室内遊び

- ・音の鳴る玩具 ・ままごと ・ブロック ・お絵描き ・シール ・絵本 ・ パズル
- ・ポットン落とし 等

○戸外遊び

- ・固定遊具 ・砂遊び ・ボール ・かけっこ 等

○その他

- ・自然物で遊ぶ ・感触遊び(絵の具、小麦粉粘土) ・巧技台 ・水遊び ・散歩 等

反省

- ・子ども達とのスキンシップを大切にすることで愛着関係、信頼関係を築いた。そのうえで、家庭との連携を密に行うようにし、一人ひとりの発達過程を理解し、その子その子に合った声かけや関わり、援助を行うことができた。
- ・保育の中で意識して声を掛け合い、職員間で連携を取りながら協力して保育を行うことができた。

わかば組・ふたば組(1歳児クラス)事業報告

基本方針

- ・一人ひとりの子どもの欲求を受け止め、安心して過ごせるようにする。
- ・自我の芽生えを大切にしながら受けとめ、情緒の安定を図る。
- ・保育者や友だちとの関わりを通し、自分の思いや気持ちを表現できるようにする。
- ・自然との関わりの中で五感を育む。

クラス目標

- ・子ども一人ひとりを受けとめ理解し、様々な経験を通して豊かな心の成長の基礎を培う。
- ・職員同士で互いに認め合い、協力し合い、リレーションシップの実現に向け、連携を深める。
- ・責任感や誇りを持ち、専門性の向上に向けて、学ぶ意欲を高めながら自己研鑽を重ねていく

活動報告

○室内遊び

・ままごと、パズル、積み木、お絵描き、シール遊び、電車、車、巧技台、人形遊び、ごっこ遊び、等

○戸外遊び

・固定遊具(滑り台、アスレチック、三角山)ボール遊び、砂遊び、ままごと、等

○その他

- ・季節の自然に触れ、虫探しや植物等での遊び、
- ・感触遊び(絵具、小麦粉粘土、春雨、寒天等)
- ・散歩、
- ・触れ合い遊び等

〈行事〉

・こどもの日 ・夏まつり・保育参観 ・七夕 ・親子ふれあい運動会 ・秋祭り・消防訓練
・クリスマス・お正月 ・節分 ・ひな祭り ・身体測定 ・避難訓練 ・内科検診 ・歯科検診 等

反省

・今年度は1歳児2クラスを3グループに分けた少人数保育を実施し、保育者も固定せずに様々な職員関わる体制を取り入れた。

個々の発達や興味に合わせた関わりを行うことで、一人ひとりの姿をより深く理解し、きめ細やかな援助に繋げることができた。計画通りに実施できない日もあったが、初めての取り組みとして職員間で連携を図りながら進めることができ、保育の質の向上につながる成果を得ることができた。

今後も職員同士、互いを認め合い、協力しながら連携を深め、一人ひとりの育ちを丁寧に支え、豊かな心の成長を培う保育を継続していきたい。

ちゅうりっぷ組(2歳児クラス)事業報告

基本方針

- ・自分のことは自分でしようという気持ちを育てる。
- ・言葉で伝えたり、言葉でやり取りしたりしながら、語彙を増やす。
- ・自然との触れ合いを通して好奇心を持ち、指先、手先、全身を使い楽しく育む。

【年間活動計画】

クラス目標

- ・安心できる関係づくり、一人ひとりの育ちを支援し保護者と共に成長を喜ぶ
- ・職員間で互いにフォローし合う
- ・自己の興味や得意分野を見極め、知識を深める

活動報告

○室内遊び

・ままごと ・ブロック ・お絵描き ・シール ・絵本 ・プラレール ・ミニカー ・パズル ・粘土 等

○戸外遊び

・虫探し ・草花で遊ぶ ・固定遊具 ・砂遊び ・スクーター ・三輪車 ・フープ ・ボール ・かけっこ ・おにごっこ 等

○その他

- ・自然物遊ぶ(草花・木の実・小石・虫探し 等) 等
- ・絵の具 ・小麦粉粘土 ・巧技台 ・水遊び ・散歩 食育等

反省

・子ども達は2クラスを分けて保育者は子どもに合わせて声を掛け合い分かれていった。

前半は職員間で話し合いが難しい連携がとりづらい場面があったが、繰り返し話し合いを重ね連携し保育をすることが出来た。子どもたちも少人数での保育をすることでゆっくり関わり室内、戸外ともに遊びが充実することが出来た。

幼児組(3・4・5 歳児クラス)事業報告

基本方針

- ・いろいろな事に『やってみよう』と挑戦する気持ちを大切にする。
- ・一人ひとりの個性特徴を尊重し、思いを汲み取り認め、自己肯定感がもてるようにする。
- ・多様な人との関わりの中で、社会における必要な習慣や態度を身につけ、思いやりの気持ちを育てる。
- ・自然に直接触れる中で興味を持ち、主体的に行動する力を育む。

クラス目標

- ・自然環境保育を通して子どもの豊かな人間性を育み、心身の調和のとれた発達の基礎を培う。
- ・多様な人と関わり認め、寄り添いチームワークの向上を目指す。
- ・自己認識力を高め、組織における自らの役割を理解しチャレンジ精神を持って主体的に取り組む。

活動報告

○室内遊び

・ままごと ・ブロック ・粘土 ・パズル ・絵本 ・お絵描き ・ぬりえ ・製作 等

○戸外遊び

・散歩(地域の散策・公園)
・固定遊具 ・砂泥水遊び ・鬼ごっこ ・三輪車 ・スクーター ・ボール ・虫探し 等

○その他

・自然物を使って遊ぶ(草花・木の実・小石 等)
・栽培(植物・野菜) ・食育 ・絵の具 ・プール・水遊び
・運動遊び(巧技台・バランスストーン・跳び箱・鉄棒 等) 等
・体操・リズム・わらべ歌遊び

○行事

・入園の祝い・春の遠足・運動会・秋の遠足・発表会・卒園遠足・お別れ会・卒園式 等

反省

・一年を通して、自然環境保育や異年齢での関わりを通じて、子どもたちの主体性や協調性を育むことができた。一方で、発達や興味の個人差に応じた支援や、より一人ひとりが達成感を得られる活動の工夫が課題として挙げられる。今後も子どもたちの思いや成長に寄り添いながら、主体的に挑戦できる環境づくりに努めていきたい。

・職員間の連携を意識して保育に取り組んだが、情報共有に課題が見られる場面もあった。今後は報告・連絡・相談を徹底し、より良いチームワークづくりに努めていきたい。

「特別保育」事業報告

事業方針

・地域の子育て家庭の心の拠り所になるような場所や情報を提供することで、子育て支援・児童福祉の目的を図る。

事業目標

- ・相手の気持ちに寄り添い、子どもや保護者・職員・地域の方が安心して過ごせる関係・環境作りをする。
- ・専門職としての意識や知識を高め、社会情勢の変化を捉えながら子育て家庭のニーズに合った支援をしていく。
- ・職員同士が互いに認め合い、個々の特性を生かし合いながら、チームとして特別保育事業を運営していく。

～子育て支援センター～

実績報告

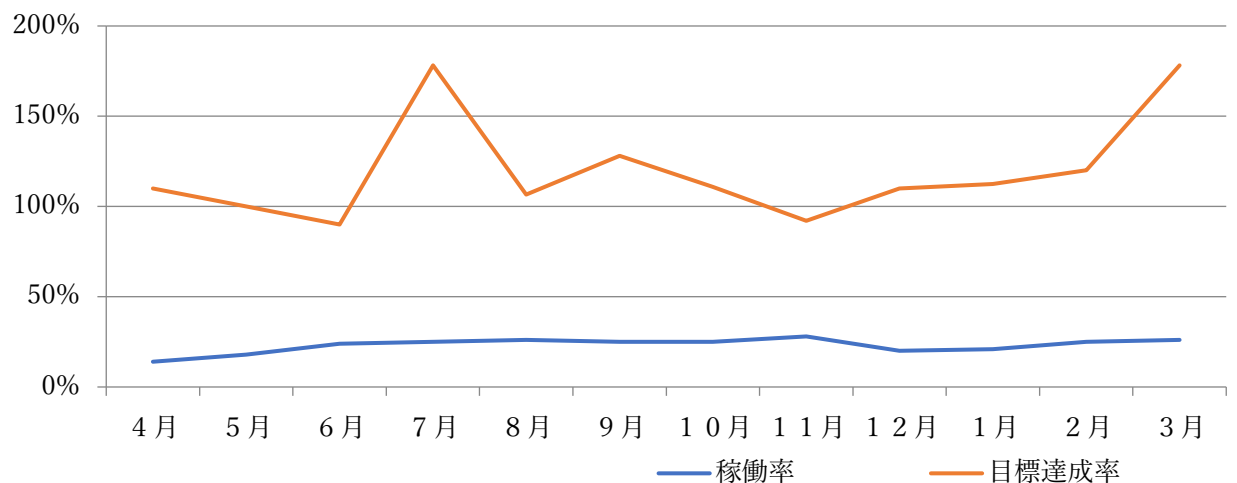
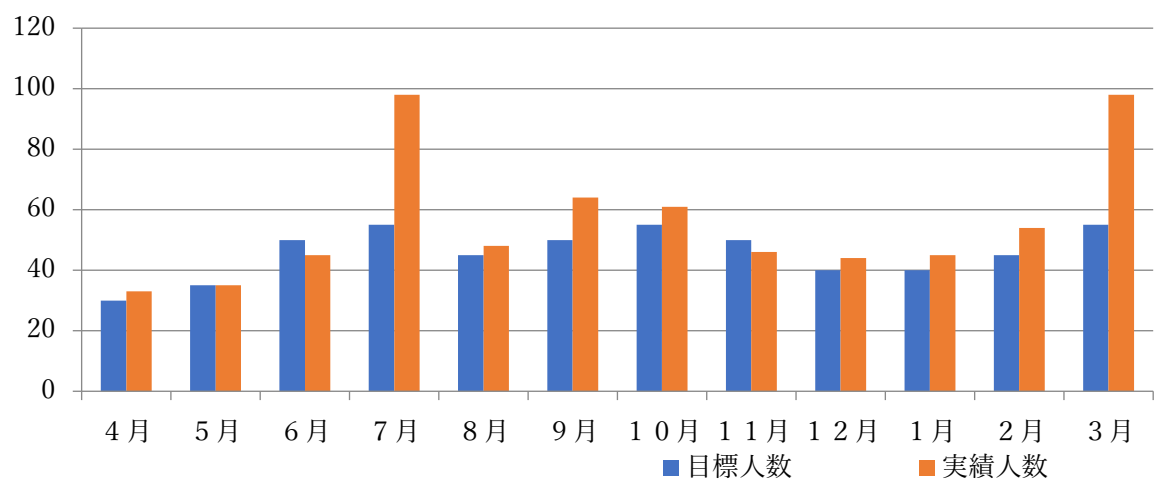
- ・過去に人気の高かった「自治会館で遊ぼう」を復活させ、地域の親子に製作や手遊びを楽しめる場を提供した。
- ・食育の一環として、そらまめやトウモロコシの皮むき体験イベントを実施した。
- ・11月に給食試食会を開催(大人300円子ども200円)。親子でランチを楽しみながら、子育て家庭の食に関する悩み相談にも対応した。
- ・2月に「離乳食のおはなし」のイベントを開催。離乳食の作り方の実演とともにレシピの紹介を行った。
- ・近隣の商業施設や小児科等にポスターの掲示、および公式LINEでの告知を行い、予約の少ないイベントへの集客を図った。
- ・6月と11月の市内の子育て支援センターとの交流会に参加し、意見交換を行った。
- ・7月に「地域子育て支援拠点施設担当者研修会」に参加。運営方法や支援スキルの向上に努めた。
- ・有資格の保育士による「ベビーマッサージ」および「ベビーマッサージ」を月1回定期開催した。
- ・青空広場として月に1回わんぱく公園にて遊びの提供を行った。その際、園に集合し一緒に歩いていくことで公園に駐車できなくても車でも来れるようになり、利用の促進を図った。
- ・2、3月は月に一度、「園庭開放」の前に5歳児クラスによる歌のお披露目をし、地域交流を図った。

反省

- ・毎月ベビーマッサージを開催することで、市外からも新規利用者が増え利用人数も伸びた。
- ・たまごタイムひよこタイムを月に一回ずつ開催し、毎月子の成長を知ることができる身体測定と手形足形製作を行うことで、固定利用者がついた。
- ・地域のお店を知ってもらったり日々の子育てを労う場として「つくしんぼカフェテリア」を企画し、今年度の利用者がほぼ全員参加し大盛況となった。

令和7年度子育て支援センター年間稼働計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
目標人数	30	35	50	55	45	50	55	50	40	40	45	55	550
稼働日数(日)	21	20	21	22	17	20	22	18	20	19	18	21	239
定員(人)	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
実績人数	33	35	45	98	48	64	61	46	44	45	54	98	671
稼働率	14%	18%	24%	25%	26%	25%	25%	28%	20%	21%	25%	26%	23%
目標達成率	110%	100%	90%	178%	107%	128%	111%	92%	110%	113%	120%	178%	122%



～一時保育～

実績報告

- ・子育て支援センターの利用者に声を掛け、短時間でもリフレッシュ目的でも利用できることを伝えた。
- ・在園クラスに入って一緒に過ごす機会を設け、子ども同士の交流を図った。
- ・長時間保護者から離れることによって心身への負担がかかることがあるため、無理なく一日を過ごせるよう配慮して関わった。
- ・子育て支援センターのイベントと一緒に参加し、遊びを共有した。
- ・保護者間での悩みや育児の悩みをもつ保護者の相談やアドバイスをを行った。(連絡ノート・面談等)
- ・育児を頑張っている保護者に対し頑張りを認めたり、褒めたり、励ましたりし子育てに対し前向きになれるような言葉掛けや配慮を心掛けた。

反省

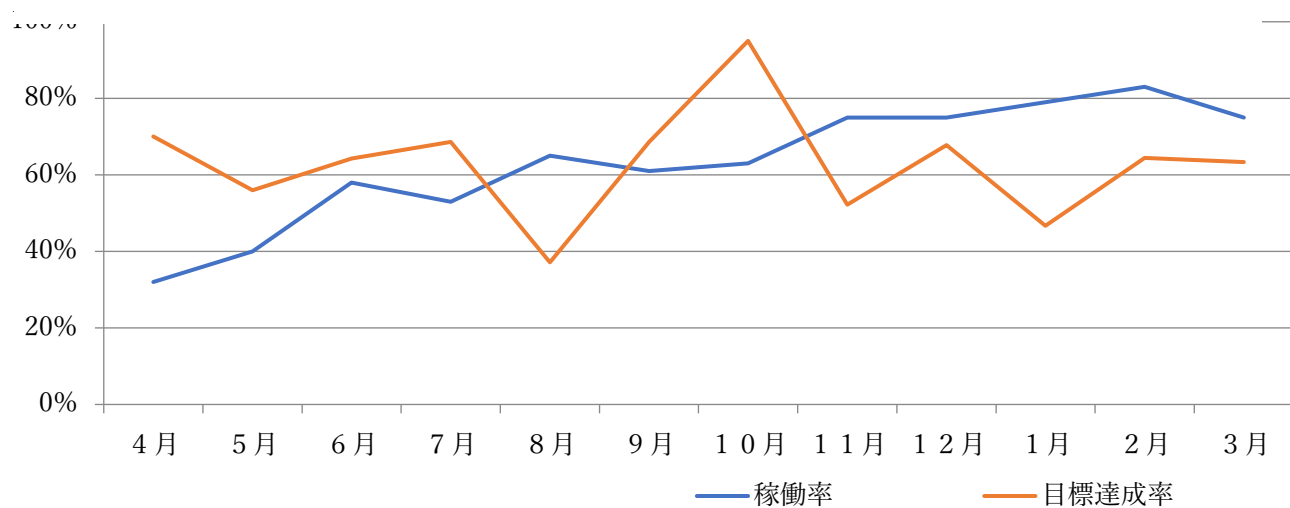
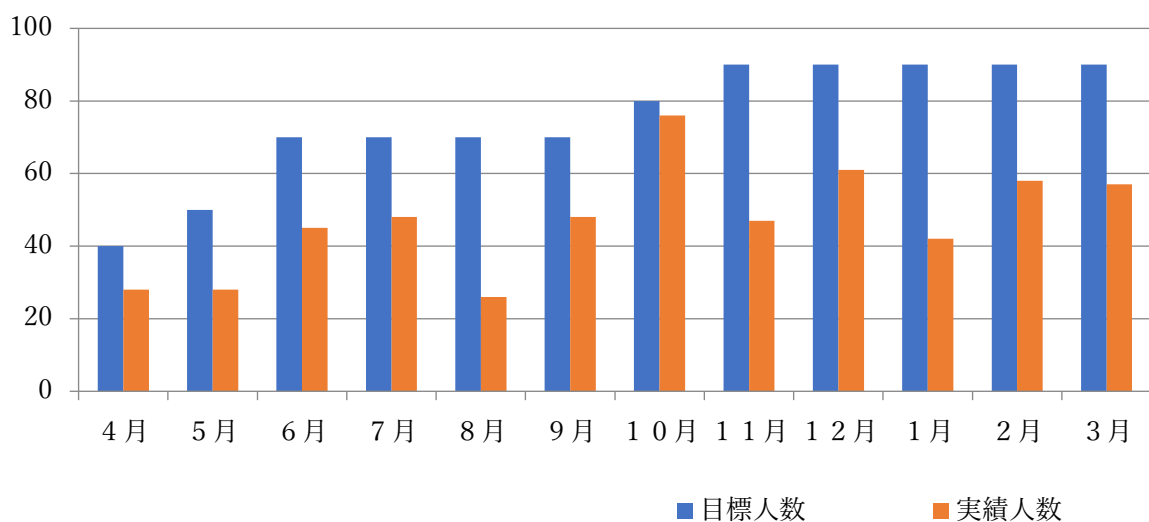
- ・年度初めは職員が2名体制だったが夏には3名となり、病後児担当職員も含め特別保育の職員間で連携し運営することができた。
- ・一時保育と子育て支援センターの職員が同じであったため、両方の利用者に声を掛け、気兼ねなく利用してもらえるよう工夫した。
- ・育児疲れによる保護者に寄り添い、子育て支援センターの利用で話を聞くなどして支援に繋げていった。
- ・予約が埋まってしまう入れなかった方にキャンセルが出たときに連絡をし、利用の減少を抑えることができた。
- ・誰でも通園制度に利用登録希望の方に一時保育の説明をし登録も一緒に勧めることで利用に繋がった。

実績報告・

- ・登降園時や連絡ノートを通して保護者の素朴な疑問や悩み等の相談・アドバイスをを行い、安心感や子育てに自信が持てるような関わりを心掛けた。
- ・長時間保護者から離れることによる心身への負担がかかることがあるため、無理なく1日が過ごせるよう配慮して関わった。(普段は家庭で保育されているため)
- ・就労で利用している方に対し、リフレッシュでも利用可能であると声を掛け、育児と仕事の両立による負担が軽減できるように配慮した。

令和7年度一時保育事業年間稼働計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
目標人数	40	50	70	70	70	70	80	90	90	90	90	90	900
稼働日数(日)	21	21	20	22	18	19	21	20	20	19	18	20	239
定員(人)	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
実績人数	28	28	45	48	26	48	76	47	61	42	58	57	564
稼働率	32%	40%	58%	53%	65%	61%	63%	75%	75%	79%	83%	75%	63%
目標達成率	70%	56%	64%	69%	37%	69%	95%	52%	68%	47%	64%	63%	63%



実績報告

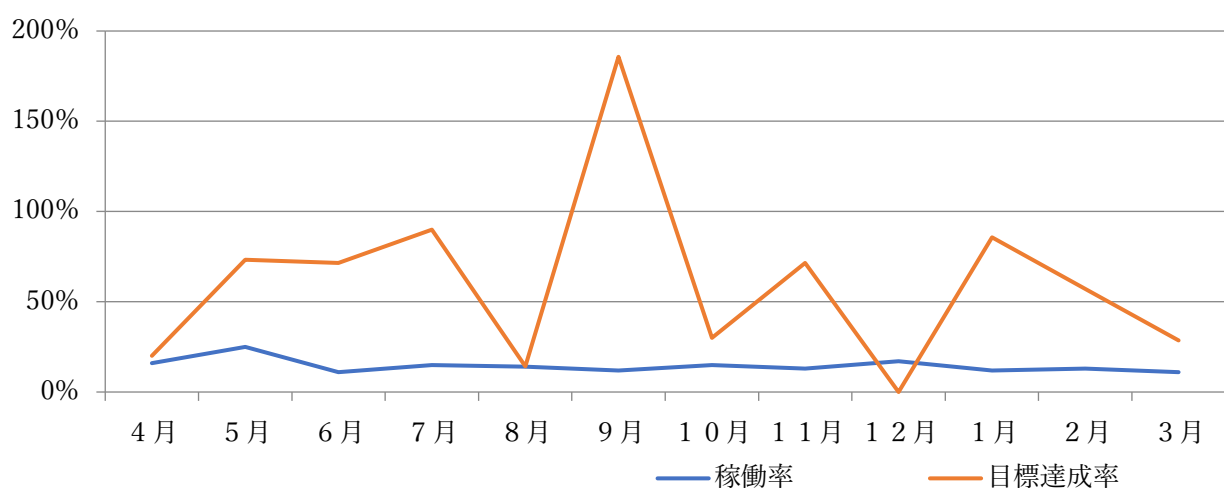
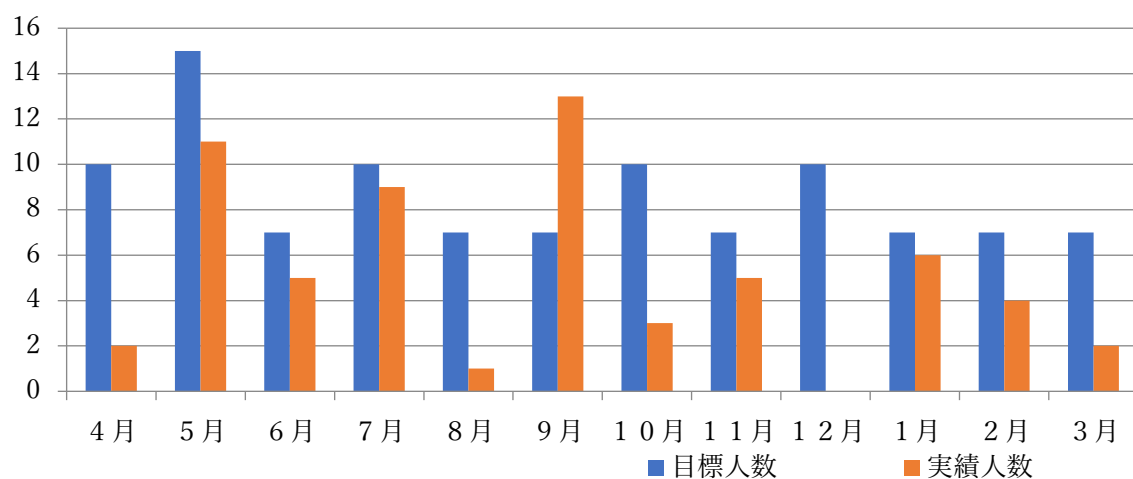
- ・送迎時や連絡帳等を通して体調に関する情報共有を行い、個々の体調や症状、生活リズムに応じた食事や睡眠、過ごし方等の調整を行なった。
- ・外遊び等の制限がある際には、園内散策や遊戯室の活用等により気分転換を図るとともに、家庭的な雰囲気の中で安心して過ごせる環境づくりに努めた。
- ・咳や鼻水がみられる時等には加湿器の使用や、午睡時に上半身を高くするなど、症状緩和に向けた対応を行なった。また、保護者に対しては、個々の症状に応じた助言等を実施した。
- ・日頃から子どもたちと関わる機会を設け、病後児保育利用時の不安軽減につながるよう配慮した。
- ・昨年度の園外児の病後児保育登録者を対象に、継続利用につながるよう今年度用の登録票の郵送を行なった。

反省

- ・利用延べ人数については、年間目標人数 100 人には至らなかった。骨折やケガ等による利用者がいなかったことも影響していると考えられるが、前年度実施した「入園のお祝い」の際の病後児保育についての説明を、今年度は実施できなかったことも要因の一つとして考えられる。年度途中には保健だよりを通して病後児保育利用について保護者への周知を行なったが、今一度周知方法を見直し、継続的な情報発信に努めていきたい。
- ・利用者一人ひとりの体調や症状に応じた対応に努めることができた。今後も安心して利用してもらえる環境づくりを継続し、再利用につながるよう努めていきたい。
- ・体調不良児についてクラス担任と情報共有を行いながら病後児利用を促すなど、利用につながる取り組みを積極的に行っていきたい。

令和7年度病後児保育事業年間稼働計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
目標人数	10	15	7	10	7	7	10	7	10	7	7	7	104
稼働日数(日)	21	19	20	20	15	19	13	18	20	19	18	21	239
定員(人)	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
実績人数	2	11	5	9	1	13	3	5	0	6	4	2	61
稼働率	16%	25%	11%	15%	14%	12%	15%	13%	17%	12%	13%	11%	15%
目標達成率	20%	73%	71%	90%	14%	186%	30%	71%	0%	86%	57%	29%	59%



栄養課事業報告

【基本方針】

- ・毎日の給食を、楽しい雰囲気の中で美味しく食べる

【年間事業目標】

- ・安心安全な旬の食材を調理する
- ・個別対応が出来る様な配慮を行う
- ・空腹を感じながら、給食が食べられる様にする

実績報告

1. 給食管理については、月に1度の給食会議を通して各年齢別の情報交換、相談を行った。
保育士より、日々の給食を通し、食具の使い方、配膳の仕方、偏食などでの悩みや相談したいことなどを参加した職員達で意見を出し合いながら共有し、解決に繋がった。
2. 給食栄養量を満たすことを目的に計画的に献立作成をし、適切な年齢別栄養給与を行った。
また、毎回園児の残食調査を実施しているが、上半期は残食が多かったので、嗜好や盛り付けを研究したことで下半期にかけて残食を減らせることが出来た。
3. 給食担当者の健康管理として、検便、毎日の健康チェックを徹底させると共に、食品の取り扱い、施設調理器具の消毒等の衛生に万全を期し『食中毒感染症』の発生防止に努めた。
4. 食育については、年齢に沿った計画のもと、日々の日常の中で食に興味関心が持てるような食事マナーを中心に、イベント企画で職員が子ども達の目の前でおやつ作りをしたり、子どもの成長、興味に合ったクッキング活動を行った。また、卒園前に5歳児は給食の中に含まれる食材でどの様な栄養が含まれているか学び、栄養バランスを考えながら5日間分の献立作成を行った。
5. 子育て支援センターでは、離乳食についての講習、保育園給食の試食会、カフェでの手作りおやつ提供などを行った。

反省

1. 今年度は、食物アレルギーの誤飲、誤食事故は0件だった。一昨年度は土曜日の弁当で誤食事故が発生したが、その際、どの職員がいつみても分る様な可視化されたマニュアル作成を行い、実践していることと、日頃の給食でも給食室職員と保育士とが二重チェックを怠らなかった結果ではないかと考えられる。
2. 4、5歳児は自分が食べられる量だけ調理器具を使用しながら、盛り付け配膳を行った。最初は多くよそり過ぎたり、また苦手なものはよそわない場面が見られたが、職員が声をかけて適量を自分で盛り付けすることが出来るようになった。自分がよそった分は食べきろうという姿も見られ全体的に残債量が減らすことが出来た。また、完食出来ることで給食の時間を楽しく過ごせる様になれた様に感じる。給食後に自分のコップは自分で洗浄するようになった。泡がすすぎきれっていないことも多々あり、給食職員が洗い直すことも多々あったが、子ども達の自立や自信に繋がったと思う。
3. 食育活動についてはどのクラスも積極的に取り入れていたが、食イベントに近い計画が多く見られた。

イベントの様な活動は食に興味関心が持てるきっかけになるかもしれないが、単発的に終えてしまい、これかから先の食習慣を形成していく時期として、日々の保育との関連性を持てる様な食育活動を実施していかなければならない。

人材資質向上マネジメント執行報告

【基本方針】

- ・人事考課、個人目標シートに基づきながらマネジメント職員に各職員が働きやすい環境作りについてどう働きかけているのか随時確認し、アドバイスを行う
- ・人材採用に向けての計画的に遂行する
- ・実習生からの職員獲得を目指す

【年間活動目標】

- ・必要とする職員配置基準が満たされる様、人員確保を行う
- ・それぞれのキャリアパスを把握し、適材適所の役割配置をする

事業報告

① 求人関係について

- ・各学校に適正時期に就活用の書類を郵送したり、キャリアス等の学生向け求人サイト、ハローワークなどの入力を中心に行った。
- ・園見学や就職希望者の学生からの問い合わせに対しての応答、案内面談日時の設定、採用試験の結果郵送した。
- ・一昨年度実習生から2名の人材確保に繋がったため、今年度も実習生メンターを取り入れて、実習生に対し現場の職員が丁寧な関わりが出来た。それにより昨年度も実習生から2名が入職することになった。
- ・新入職員向けオリエンテーションの計画を立てて実施した。

② 人事考課表について

職員の質の向上、適正な配置(キャリアアップを含む)を目標とした人事考課表の書類管理を行った。

③ 人員配置について

- ・令和8年度新規雇用は以下の通り。
(新卒者雇用2名)
- ・令和7年度産休、育休復帰者は以下の通り。
(正職2名)
- ・令和7年度途中入職者は以下の通り。
(正職、パート、派遣いずれも0名)
- ・令和7年度退職は以下の通り
(正職5名、パート1名)

- ・令和7年度途中退職者は以下の通り。

(正職1名)

- ・令和7年度産休、育休取得者は以下の通り。

(パート2名)

反省

- ・新卒者1名が3か月で退職となった。新卒者に対しては、例年以上にメンター以外の職員もフォローをしていたが、社会人初めての経験の中、職員が想像してた以上に精神的にも不安定になってしまっていたのではないかと考えられる。産休、育休明け職員がいたり、新卒者も4名と多かったため、人員不足には至らなかったが、令和8年度も2名新卒者が入職するので改めて新卒者へのフォローについては考えていかなければならない。
- ・令和7年度の退職者が7名と、過去最高に多かった。ご家族の転勤、家族関係などでやむを得ない理由もあるが、働き方、人間関係などの理由もあり得ると考えられるので、退職者を増やさない様、人事考課面談以外にも時間や機会を設けて職員が働きやすい環境作りをしていく必要がある。
- ・人事考課に関しては、各々がリーダーを中心に配置されたクラスや係などを考慮しながら目標が立てられており、個人の目標以外でも園目標、法人目標を意識しながら取り組んでいた。

乳児保育執行報告

活動方針

- ・乳児保育で必要な環境についての理解を深め、年齢や個々の発達に合わせた関わりを行う。
- ・自然に触れ、親しむ活動を通して子どもたちの感性を豊かにし、主体性の基礎を育む。

年間目標

- ・乳幼児期の育ちを理解し、発達に応じた関わりを丁寧に行う。
- ・愛着形成と自己肯定感を育む為、一人ひとりの欲求に共感的に応答し、関わる。
- ・子どもたちが興味・関心の持てるような環境とは何かを考え、日常の保育に活かす。
- ・保護者との信頼関係を築きながら、子どもたちが健やかに成長できるよう連携を取る。

執行報告

- ① 自然との触れ合いを通した保育の推進に努めた。

乳児期の発達に合わせ、自然に親しめる活動を保育の中に取り入れた。

- ・園庭や散歩先で草花や木の実などに触れる機会を設けた。
- ・自然物を使った遊びや製作活動を行なった。
- ・季節の変化を感じられる環境づくりを行ない、五感を使った体験を大切にした。

- ② 散歩活動の充実と環境把握を行なった。

地域の自然を活用ながら、散歩活動を実施した。

- ・近隣降園や地域の散歩コースを活用した。

- ・季節ごと自然の変化を観察した。
- ・散歩ルートや危険個所について職員間で情報共有を行なった。
- ・散歩マニユアについての見直しを行ない、会議や朝礼等で情報共有を行なった。

③ 園内研修・職員の学びの共有に努めた。

自然環境について理解を深めるため、幼児教育と連携して、年4回の園内研修を実施した(5月・9月・12月・2月)

- ・自然との触れ合いを通して育まれる力について学んだ。
- ・五感を使った遊びや体験の大切さについて理解を深めた。
- ・自然物を活用した保育実践について情報共有を行った。
- ・グループワークを取り入れ、子どもの興味や発達に合わせた活動について意見交換を行い、話合った。
- ・実際に自然物を使った活動を体験し、保育の取り入れ方について検討した。

④ 千葉県自然環境保育(うみやま保育)認証園としての書類作成・提出を行った。

幼児教育の部署との連携を取りながら、年3回の必要書類の作成をし、千葉県健康福祉部子育て支援課に交付申請を行なった。

- ・令和6年度の千葉県自然環境活動費補助金の実績報告書を作成し、提出した(4月)。
- ・令和6年度分の自然環境保育活動内容報告をまとめ、千葉県健康福祉部子育て支援課に提出した(6月末)。
- ・令和6年度自然環境活動補助金が31,000円交付された。(5月末)
- ・令和7年度自然環境活動補助金事業計画書を千葉県に提出した(12月)

反省

- ・自然との触れ合いや散歩活動、園内研修を通して、子どもたちが五感を使って自然を感じ、主体的に遊びや発見を楽しめる環境作りを進めることができた。
- ・園内研修を通して、ちばうみやま保育についての活動内容の実践例でのグループワークが充実し、意見交換が活発に行われたことで、自然環境保育への理解・実践への取りくみが増えてきた。
- ・散歩マップについては、幼児教育専門リーダーとの連携の中で進めていたが、他部署との連携も必要だと感じた。情報共有を行いつつ、来年度も引き続き安全に散歩等の活動が進められるようにしていく。
- ・主体性や探求心を引き出すための環境構成について考える良い機会となった。さらに、木育活動の中で、職員が木の玩具に触れ、その特性や魅力を体感しながら子どもたち興味や発見を広げるための関わり方や環境作りについて考えたり、意見交換ができたことで、貴重な経験ができ、理解を深めることができたと思う。来年度は、子どもたちも木の玩具で遊ぶ活動を取り入れていく。

今後子どもたちの興味や発達に応じた自然体験を、大切にしながら豊かな感性や探求心を育む保育を継続していきたい。

幼児教育執行報告

活動方針

- ・幼児期で必要な環境についての理解、10の姿を取り入れていく。
- ・自然に触れる体験を通し、四季の変化を感じ、好奇心や探求心を高め主体的に活動する。
- ・遊びの中で友だちと関わり、ルールの共有・協力し築き上げる楽しさや面白さを知れるようにする。

年間目標

- ・子ども一人ひとりの発達の個人差に留意しつつ、10の姿を見通した保育をする。
- ・日々の保育の中で自然を感じ、様々な行事や記念日などの活動を取り入れる。
- ・散歩や散策活動を取り入れていく。
- ・環境についての見直しを行う。
- ・園内研修や会議等での意見交換や話し合いを通して子ども理解を深める。

執行報告

- ・子どもたちが四季を感じたことや発見したものを可視化し共有できるように掲示物の作成を1年通して取り組んだ。
- ・乳児保育と共に自然環境保育について園内研修を4回に実施した。園全体でのちば・うみやま保育への取り組みについて職員間で意識を高めていった。
- ・ちば・うみやま保育について保護者の方にも周知してもらう為に園での取り組みのポスターや認定園マークの掲示をした。
- ・木育の一環で千葉県の木玩具を職員が触れる機会を作り、研修を行った。
- ・プランター栽培に取り組む中での反省を活かし、ガーデンフレームの畑を設置し野菜の栽培に取り組んだ。
- ・園庭の使い方・ルールについての表を活かし、戸外活動が十分に確保できるように各クラスに促した。
- ・令和7年度の千葉県自然環境活動費補助金の実績報告書を作成し、4月に提出した。

反省

- ・自然との触れ合いや散歩活動、園内研修を通して、子どもたちが五感を使って自然を感じ、主体的に遊びや発見を楽しめる環境作りを進めることができた。
- ・園内研修を通して、ちばうみやま保育についての活動内容の実践例でのグループワークが充実し、意見交換が活発に行われたことで、園全体での自然環境保育への理解・実践への取り組みが増えてきた。
- ・様々な専門リーダーとの連携の中で進めていたが、来年度も引き続き安全に戸外活動等が進められるようにしていく必要がある。

障害児保育執行報告

活動方針

- ・子どもたち一人ひとりに対して同等に最善の利益を保証するために、「生きる権利」「守られる権利」「育つ権利」「参加する権利」の観点から、個々に生じた課題に関して積極的に向き合っていく。
- ・多様化する子どもの姿への理解を深めるため、それぞれが知識を身に付け、個々に合った支援を行っていく。

年間目標

- ・障害、病歴、気になる子について理解を深め園全体で支援の手立てを考えていく。

執行報告

① ケース会議

年に1回のケース会議に向けて、病気の子、障がいのある子、気になる子の情報収集を行い、資料を作成してもらうようにした。会議の実施後には園内での周知がされるように会議録を作成した。

② 在園児連絡会

市の保健師からの連絡を受け、情報の共有が必要である児のリストアップを行った。また、ケース会議後の子どもたちの様子や、その家庭環境等についての情報収集を行った。会議では情報交換を行い、より良い支援ができるように担任との連携を行った。

市のことばの教室のパンフレットをもらい、掲示をしたり保護者の目につく場所に置いたりし、ことばの発達について不安のある家庭には個別での声掛けを行った。

③ 園内研修

異なる園の事例を用いて子どもへの関わり方や援助方法について検討を行った。職員間で意見交換を行い、事例ごとの対応や支援の視点を共有した。

事例であげた3例の意見等をまとめ、事例クラスで活用できるようにした。又、その後の子どもの様子について会議等で係として報告し、継続的な支援につなげた。

反省

- ① ケース会議は年に1回なので、その後の経過についてどう報告し合うべきか考え、月案会議では個別の話の時間を多くとれるようにした。気になる子、配慮が必要な子の近況を報告、共有することができたため、今後も続けていきたい。次の段階として、係だけでなく、職員全体が個別の話をする意識を持てるようにしていきたいという目標がある。
- ② 在園児連絡会では、子どもの話だけでなく、家庭の話も多くあったため、保護者支援の委員会を巻き込んで実践した方が良かった。次年度はそういったことも相談、実行ができるようにしたい。
- ③ 園内研修では、子どもを取り巻く環境や背景への理解を深めるとともに自身の関わり方や環境構成について見直す機会になった。グループ協議では集団全体を見通した支援のあり方について考えを深めることができた。

保護者支援子育て支援・地域交流執行報告

活動方針

- ・児童虐待防止 : 子どもの最善の利益を守る。(日々の保育を振り返り、園内の子どもの利益を守る。)

・保護者支援子育て支援:専門的な知識を活かし家庭の環境を整える手助けをする。(各家庭の状況についての共通理解を図る。)

・多様化する子育て支援に対応できるよう、個々にあった支援を行う。

年間目標

- ・会議やお知らせを通し、園での虐待防止を高めていく。
- ・市との連携をとりながら家庭の情報交流をしていく。
- ・保護者と子どもの安定した関係を目指し各家庭に寄り添った支援を考えていく。
- ・子育て支援を通し地域との交流を図る。

執行報告

- ・クラス会議等を通して各クラス運営の悩みを話し合う。
- ・保護者の悩み等をクラスや園全体で考えていきそれぞれの家庭にあった対応や対策を考え、月案会議を通し職員に周知していく。
- ・年長児が子育て支援を利用している方の前で歌を歌う等の交流をしていった。
- ・月案等で地域や子育て世代が楽しめるイベントを考えていく。

反省

・地域交流としては年賀状や子育てのイベントとして年長児の歌を披露するなどで交流できたのでこれからも続けていければと感じる。保護者支援は園内研修を通しロールプレイや話し合い等を通し少しずつ理解を深めていった。

防災・事故防止執行報告

活動方針

〈防災〉

- ・有事に備えた計画を立て実践する
- ・訓練を通して有事の際に命を守るための的確な対応を学ぶ
- ・子どもたちへ有事の際の対応を簡単に伝えていく

〈事故防止〉

- ・子どもの心身の安全な保育環境を確保する。
(危険箇所を発見し、環境の見直しをする事で安全な環境を提供する。)

年間目標

〈防災〉

- ・訓練に参加し、職員全体で反省や改善を話し合い共通理解を深める。
- ・園児自身が安全の為訓練を理解し自ら進んで参加できるようにする。

〈事故防止〉

- ・園内研修を通し、事故・虐待に対する意識を高めていく。
- ・園で起こりうる事故を防止する策の見直しと実施。(ヒヤリハットの改善)

執行報告

〈防災〉

- ・月に一度、避難訓練の実施
- ・引き渡し訓練実施
- ・月に一度、避難リュックの中身の点検の実施
- ・棚の上の整理の呼び掛け
- ・防災頭巾の貸し出しの起案書の提出。防災頭巾の発注
- ・避難具の見直し、足りない物を購入

- ・消防立ち入り訓練実施
- ・散歩用、非常用トイレ購入
- ・突っ張り耐震ポールの購入、設置

避難訓練報告

- 4月 非常ベルの音を聞く
- 5月 地震想定
- 6月 火災想定
- 7月 洪水想定
- 8月 時間外における地震想定
- 9月 引き渡し訓練
- 10月 震度6強の地震想定
- 11月 消防立ち入り訓練
- 12月 不審者侵入想定
- 1月 火災想定
- 2月 火災想定
- 3月 予告なし訓練・不審者侵入想定

〈事故防止〉

- ・ヒヤリハットの周知、強化。
- ・掲示物の修正。
- ・水遊び・プールについての周知。
- ・公園マップの作成。
- ・散歩マニュアルの作成。
- ・タープマニュアルの作成。
- ・園庭表の作成、周知。
- ・安全管理マニュアルの見直し、修正。
- ・BCPの周知。
- ・未就学児施設におけるリスク・マネジメント研修の実施。
- ・室内の危険個所の見直し。
- ・さすまの使い方の実践。

反省

- ・年間計画を元にしながら、状況に応じて内容を変更し取り組むことができた。同じ火災想定でも様々な想定で行う事ができた。地震・火災以外にも不審者想定や洪水想定などの訓練を行うことができた。
- ・研修で学んだことを会議内で伝えたり、研修を実施したりし、みんなに周知することができた。
- ・ヒヤリハットは今年度、集計を取ったり、提出の仕方を工夫したりし、ヒヤリハットの強化を行うことができたが、ヒヤリハットの検証まではできなかった。
- ・今年度は新たにマニュアルの作成やマップの作成を行うことができた。作成した物を通し、安全への意識を高めることができた。

保育実践マネジメント執行報告

活動方針

- ・一人ひとりの職員が主体的に学び、個の力を発揮・活かしあいチームで保育を行えるよう働きかける。

年間目標

- ・一人ひとりの職員の資質向上及び職員全体の専門性の向上を目指す

執行報告

- ◆園の理念や方針について、職員一人ひとりが理解を深め実践につなげられるよう、上司の助言を受けながら職員間の連携を図り、組織的な周知・共有に努めた。
- ◆職員が主体的に研修へ参加し、専門性を高められるよう研修計画を立案・実施した。（山武支会研修、園内研修一年10回、千葉県社会福祉協議会研修、自主勉強会等）
- ◆各研修で得た知識や学びを園内研修や研修報告を通して共有し、職員全体の資質向上につなげた。
- ◆各分野別リーダーと意見交換を行い、必要に応じて助言・指導を行った。
- ◆年間カリキュラムの見直しや保育所保育指針に基づく保育内容の確認を行い、必要に応じて助言、指導を行った。
- ◆働きやすい環境作りを目指し、互いの立場や意見を尊重し、良い所を認め合いながら、それぞれの得意分野を活かせる体制づくりに取り組んだ。また、クラス間や園全体の連携強化を図った。
- ◆マネジメント業務として、シフト管理や人員配置の調整を行うとともに、職員の健康管理及び働きやすい環境づくりに努めた。
- ◆看護師によるストレスチェックの結果を共有し、必要に応じて職員へのフォローを行った。
- ◆ICT化の促進を図り、業務の効率化及び情報共有の充実に取り組んだ。
- ◆PDCAサイクルの考え方を職員間で共有し、継続的な保育の質向上に努めた。
- ◆実習生およびインターシップ受け入れに際し、助言、指導を行い、人材育成に寄与した。
- ◆保育活動を適切に記録・発信できるよう、ドキュメンテーション等の活用についての助言や指導を行った。
- ◆自然環境保育やインクルーシブ保育への理解を深め、乳児保育・幼児保育担当者と連携しながら、実践・振り返り・改善を継続的に行った。

反省

研修参加や園内での学びの共有を通して、職員の専門性向上や保育の質の向上につなげることができた。また、職員間の連携を図りながら、働きやすい環境づくりやチーム保育の推進に努めた。

一方で、学びを実践へ結びつける取り組みや、職員一人ひとりの主体性をさらに高める支援については継続して取り組む必要がある。今後は職員の強みを活かした人材育成と継続的な振り返りを行い、より質の高い保育の実現を目指していきたい。

保健衛生マネジメント執行報告

活動方針

- ・一人ひとりの心身の発育・発達状況や健康状態を把握し、疾病等の早期発見・発生予防や事故防止等に努め、生命の安全の確保や健康の維持・増進を図る
- ・自らの体や健康に関心が持てるように、また健康で安全な生活を作り出す力を身につけていくように、年齢に合わせた保健教育・指導を目指す。
- ・職員の保険衛生・安全対策に対する意識や知識の定着・向上を図り、適切な対応や対策を行うことを目指す。

年間目標

- ・子どもたちが心身ともに健康で安全に、保育園生活を快適に送ることができる
- ・職員が心身ともに健康で、より良い保育を提供できるように努める

執行報告

- ・年2回、市の歯科衛生士による歯みがき教室を実施した。
- ・歯科検診及び内科健診を年2回実施した。また、園で受けられなかった園児には嘱託医による個別健診を促し勧奨した。健診結果は保護者へ周知し、異常や経過観察が必要な園児については医療機関の受診を勧めた。
- ・園児の健康状態や欠席状況について、クラス担任と連携しながら日々把握・記録・情報共有を行い、感染症サーベイランスに活用した。また、体調不良児や病欠者の保護者へ積極的に声をかけ、状態把握や助言を行なった。
- ・全園児の出生時からの身体測定値を入力し、成長曲線を作成した。その結果を元に、発育異常等の疑いや傾向のある園児に関して担任や保護者へ情報共有・助言を行い、栄養士とも情報共有した。
また、卒園児には出生時から伸びた身長と同じ長さのリボンを用意し、成長曲線を印刷した用紙に結びつけて記念品として贈呈した。
- ・園児が抱える疾患について、原因や症状などの基礎的な医療知識をまとめた資料を作成し、職員の疾患理解の促進を図った。
- ・幼児クラスには「いのちの安全教育」の教材や自作のマグネットシートなどを活用し、プライベートゾーンや着替えについて指導を行った。また、プール遊び時の着替えでは、プライベートゾーンを意識した着替えができるよう見守り、必要に応じて援助しながら指導した。
- ・年齢に応じた保健指導として、1歳児には手洗い指導、2歳児には虫歯予防(食後の麦茶の大切さ)、3・4・5歳児には目の愛護デーに合わせた目に関する話、3歳児にはフッ化物洗口のうがい練習を実施した。動画やクイズなどを取り入れ、楽しみながら学べるよう工夫した。
- ・職員を対象にストレスチェック及び疲労蓄積度チェックを実施し、心身の健康状態の把握と健康管理意識の向上に努めた。

反省

- ・昨年度の反省を踏まえ、プライベートゾーンや着替えに関する指導をプール遊び開始時期に合わせ実施し、「目の愛護デー」に合わせた保健指導も計画的に行うことができた。また、職員へのストレスチェックについてもタイミングを逃すことなく実施することができた。今後も計画的に余裕を持った準備と継続的な実施に努めていきたい。
- ・保健指導では、年齢や発達段階に応じて動画やクイズ、教材等を活用しながら実施したことで、園児が興味を持って参加する姿がみられた。一方で理解度には個人差があるため、今後も担任と連携しながら内容や教材を工夫し、より効果的な指導に努めていきたい。
- ・園児の健康状態や成長発達について、担任や保護者、他職種との情報共有を行うことで早期の気づきや支援につなげることができた。今後も関係職種との連携を深め、園児一人ひとりに応じた健康支援の充実を図っていきたい。
- ・健診結果や身体計測データを活用し、保護者への助言や受信勧奨を行うことができた。今後も継続的な健康管理を通して、疾病の早期発見や健康増進につなげていきたい。

年間反省

- ・今年度はみどりが丘保育園の保育の原点を改めて理解するため、保育理念・保育方針・保育目標が身近にあるのとして意識できるよう、会議や研修の場で簡易的なペーパーテストを繰り返し取り組んでいった。始めのうちは言葉を覚える事に意識がいっている様子だったが、少しずつ本質に目を向けるよう意識付けしていった。本質を理解し保育計画や関わりにアウトプットする場面が増えていった。しかし、個々に目を向けるとまだまだ課題は残る。
- ・インクルーシブ保育を見つめ直し、先入観のない子ども達へ一人ひとり違っていいという価値観を育むために、先ずは大人が持つ先入観を取り払い柔軟な思考へ変換していく事を意識していった。自身の考えを発信する癖と、相手の意見を受け入れた上での対応力をつけるため研修や会議をグループワーク中心に取り組んだ。また、個々のスキルアップを図り外部研修を積極的に調べ、職員が多くの選択肢から選べるように好奇心を刺激していった。多くの職員が受けた研修に参加した反面、個人差が大きく出てしまっていた。
- ・保育の質を上げる目的や、作業効率を図り働き方改革の一環として、新たなシステムを導入する。今までの園仕様で残していきたい内容と職員が扱いやすく、かつ効率よくできるようカスタマイズができるシステムを取り入れたが、園独自の仕様に作り上げていく事や作業に慣れるまで時間がかかった。年度後半になって作業効率が良くなったと実感が少しずつ得られるようになっていった。過重業務の課題は大きく引き続き軽減できるよう取り組んでいく。

園全体やクラス毎等業務が多いからこそ、声を掛け合い負担を分散しながら協力的に行う姿は多く、その関係性が子ども達にも良い影響をあたえている。
- ・総括／職員一人ひとりが輝ける職場を目指し、やりがいを持って保育を楽しみ子どもの最善の利益を追求できるよう邁進してきた。クラスのチーム力向上、新人育成、実習生から新人獲得へ繋がる試み、職員が作り上げる園内研修など具体的な取り組みに力を入れていった。クラス会議を中心にコミュニケーションの場を意図的に設けた事や、新人育成のためにメンター会議やメンターの個人面談、実習生メンター制度の導入、マネジメントリーダー会議など職員の思いをまずは口に出す場を意識的に設けることで前年度に比べ風通しの良い人間関係が見られるようになった。言葉で伝える事を習慣化することで連携必須な保育の土台が強固になってきている。しかし、発信を苦手とする職員は皆無ではなく成長がゆっくりな者もいるが、指摘するのではなく、周りが聴きだすことや得意な事を伸ばしていく視点へと転換するよう意識統一していったことが、取りこぼさずチーム力の向上へと繋がった。

職員自身が周りから大事にされている、必要とされていると感じることが仕事へのモチベーションになっていっている。また、そのモチベーションが子ども達や保護者へ向けられたからこそ、子育て支援センターの稼働率が200%を超える月があり、また一時保育も過去の利用者の口コミが和繋ぎとなって新規利用者が増える状態であった。ただ、一時保育や支援センター利用者拡大の為10月から実施している誰でも通園制度の受け入れ枠が確保できずR7年度は実績0に終わった。需要自体が現時点ではそこまで大きくないが、来年度の本格実施化により利用者が増える事が予測されるので実績につなぐよう対策は園全体で模索していく。